



# ラックマウント サーバハードウェア管理

- [ラックマウント サーバー管理 \(1 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの削除および解放に関するガイドライン \(2 ページ\)](#)
- [予期しないサーバー電力変更を回避するための推奨事項 \(3 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーのブート \(4 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーのシャットダウン \(5 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの出荷時のデフォルト設定へのリセット, \[on page 6\]\(#\)](#)
- [永続メモリ スクラブの実行 \(8 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの電源再投入 \(8 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーのハードリセットの実行 \(9 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの認識 \(10 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの解放 \(10 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバの再稼動 \(11 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの番号付け直し \(11 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの削除 \(13 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーのロケータ LED の電源投入 \(14 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーのロケータ LED の電源切断 \(15 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの CMOS のリセット \(15 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの CIMC のリセット \(16 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーの TPM のクリア \(16 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーのステータスの表示 \(17 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバーからの NMI の発行, \[on page 18\]\(#\)](#)
- [Power Transition Log の表示 \(19 ページ\)](#)

## ラックマウント サーバー管理

Cisco UCS Manager を使用して、Cisco UCS ドメインに統合されているすべてのラックマウントサーバーを管理およびモニターすることができます。電力制限を除くすべての管理およびモニターリング機能がラックマウント サーバーでサポートされます。電源状態の変更など一部の

ラックマウントサーバ管理タスクは、サーバとサービスプロファイルの両方から行うことができます。残りの管理タスクは、サーバ上でのみ実行できます。

Cisco UCS Manager は、検出された各ラックマウントサーバに関する情報、エラー、および障害を提供します。



**ヒント** サポートされる Cisco UCS ラックマウントサーバと Cisco UCS Manager との統合方法については、ご使用の Cisco UCS Manager のリリースに応じた Cisco UCS C シリーズサーバ統合ガイドまたは Cisco UCS S シリーズサーバ統合ガイドを参照してください。

## ラックマウントサーバの削除および解放に関するガイドライン

Cisco UCS Manager を使ってラックマウントサーバを削除するか解放するかを決定する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

### ラックマウントサーバの解放

解放は、ラックマウントサーバが物理的に存在し接続されているが、一時的に設定から削除する必要がある場合に実行します。解放されたラックマウントサーバは最終的に再稼働することが予測されるので、サーバの情報部分は、将来の使用に備え、Cisco UCS Manager によって保持されます。

### ラックマウントサーバの削除

削除は、ラックマウントサーバをファブリックエクステンダから接続解除して、システムから物理的に削除する（取り外す）場合に実行します。ラックマウントサーバが物理的に存在し、ファブリックエクステンダに接続しているときは、Cisco UCS Manager から削除できません。ラックマウントサーバの接続を解除した後、その設定を Cisco UCS Manager から削除できます。

削除時、管理インターフェイスは接続解除され、すべてのエントリがデータベースから削除されます。サーバは検出時に割り当てられたすべてのサーバプールから自動的に削除されません。



**(注)** 自動的に削除されるのは、検出時に自動的にサーバプールに追加されたサーバのみです。サーバプールに手動で追加したサーバは手動で削除する必要があります。

削除したラックマウントサーバを再び設定に追加する場合は、再接続して再度検出する必要があります。Cisco UCS Manager に再導入したサーバは新規サーバとみなされ、詳細なディスクバリプロセスが実施されます。このため、Cisco UCS Manager によって以前とは異なる新しい ID がサーバに割り当てられることがあります。

## 予期しないサーバ電力変更を回避するための推奨事項

サーバがサービスプロファイルに関連付けられていない場合は、サーバの物理的な [Power] または [Reset] ボタンなど、サーバの電源状態を変更するために使用可能な手段をすべて使用できます。

サーバがサービスプロファイルに関連付けられているか、サービスプロファイルに割り当てられている場合は、サーバの電源状態の変更は次の方法でのみ行う必要があります。

- Cisco UCS Manager GUI で、サーバに関連付けられたサーバまたはサービスプロファイルの [General] タブに移動し、[Actions] 領域で [Boot Server] または [Shutdown Server] を選択します。
- Cisco UCS Manager CLI で、サーバ、またはサーバに関連付けられたサービスプロファイルに対して **power up** または **power down** コマンドを使用します。



**重要** 電源がオフになっている関連サーバには、次のオプションのいずれも使用しないでください。

- GUI の [Reset]
- **cycle cycle-immediate** または CLI の **reset hard-reset-immediate**
- サーバの物理的な [Power] または [Reset] ボタン

現在電源がオフになっているサーバに対して、リセットまたはサイクルを実施するか、サーバの物理的な [Power] ボタンを使用すると、サーバの実際の電力状態がサービスプロファイルで必要とされる電源状態の設定と同期しなくなる可能性があります。サーバと Cisco UCS Manager 間の通信が中断したり、サービスプロファイルの設定が変更されると、Cisco UCS Manager によって、必要とされる電源の状態がサービスプロファイルからサーバに適用される場合があります、この結果予期しない電力変化が発生する可能性があります。

電源の同期に関する問題は、次に示すように予期しないサーバの再起動につながる可能性があります。

サービスプロファイルで必要とされる電源状態	現在のサーバの電源状態	通信が中断された後のサーバの電源状態
アップ	電源オフ	[電源オン (Powered On) ]

サービス プロファイルで必要とされる電源状態	現在のサーバの電源状態	通信が中断された後のサーバの電源状態
ダウン	電源オン	電源オン  (注) 実行中のサーバは、サービスプロファイルに必要とされる電源状態に関係なくシャットダウンされません。

## ラックマウントサーバのブート

### 始める前に

ラックマウントサーバとサービスプロファイルを関連付けます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスプロファイルで組織サービスプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>power up</b>	サービスプロファイルに関連付けられたラックマウントサーバをブートします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例は、ServProf34 という名前のサービスプロファイルに関連付けられたラックマウントサーバをブートし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power up
```

```
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## ラックマウント サーバーのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティング システムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフル シャットダウン シーケンスがトリガーされます。

### 始める前に

ラックマウント サーバーとサービス プロファイルに関連付けます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>power down</b>	サービス プロファイルに関連付けられたラックマウント サーバーをシャットダウンします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、ServProf34 という名前のサービス プロファイルに関連付けられたラックマウント サーバーをシャットダウンし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power down
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

# ラックマウントサーバーの出荷時のデフォルト設定へのリセット

ラックマウントサーバーを出荷時の設定にリセットできるようになりました。デフォルトでは、出荷時へのリセット操作は、ストレージドライブおよびflexflashドライブなどのストレージに影響しません。これはデータの損失を防止するためです。ただし、これらのデバイスを既知の状態にリセットすることもできます。



**Important** ストレージデバイスをリセットすると、データが失われる可能性があります。

サーバーを出荷時のデフォルト設定にリセットする必要がある場合には、次の手順を実行します。

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>server-num</i>	指定したラックマウントサーバーでサーバーモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # <b>reset factory-default</b> [ <b>delete-flexflash-storage</b>   <b>delete-storage</b> [ <b>create-initial-storage-volumes</b> ]]	<p>サーバー設定の工場出荷時の初期状態へのリセットは、次のコマンドオプションを使用して行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>factory-default</b> : ストレージを削除せずに、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットします。</li> <li>• <b>delete-flexflash-storage</b> : サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットして、FlexFlash ストレージを削除します。</li> <li>• <b>delete-storage</b> : サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットして、すべてのストレージを削除します。</li> <li>• <b>create-initial-storage-volumes</b> : サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、すべてのディスクを初期状態に設定します。</li> </ul>

	Command or Action	Purpose
		<p><b>Important</b> ストレージプロファイルを使用する場合は、<b>create-initial-storage-volumes</b> コマンド オプションを使用しないようにしてください。ストレージプロファイルを使用しているときに初期ボリュームを作成すると、設定エラーが発生する可能性があります。</p>
ステップ 3	UCS-A /server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### Example

次に、ストレージを削除せずに、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

次に、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットし、FlexFlash ストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default delete-flexflash-storage
UCS-A /server* # commit-buffer
```

次に、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default delete-storage
UCS-A /server* # commit-buffer
```

次に、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除し、すべてのディスクを初期状態に設定して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default delete-storage create-initial-storage-volumes
UCS-A /server* # commit-buffer
```

## 永続メモリスクラブの実行

Cisco UCS Manager では、次の方法のいずれかを使用して永続メモリをスクラブできます。

- サービス プロファイルおよびスクラブ ポリシーと選択した永続メモリ スクラブとの関連付け解除
- 選択した永続メモリ スクラブでサーバを工場出荷時のデフォルトにリセットする
- ゴールの削除

## ラックマウントサーバの電源再投入

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>server-num</i>	指定したラックマウントサーバでサーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # <b>cycle</b> { <b>cycle-immediate</b>   <b>cycle-wait</b> }	ラックマウントサーバの電源を再投入します。  ラックマウントサーバの電源再投入をただちに開始するには、 <b>cycle-immediate</b> キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後に電源再投入が開始されるようスケジュールするには、 <b>cycle-wait</b> キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウントサーバ 2 の電源をただちに再投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # cycle cycle-immediate
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```



# ラックマウント サーバのハードリセットの実行

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセットライン上にパルスが送信されます。オペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを選択することができます。オペレーティングシステムでグレースフルシャットダウンがサポートされていない場合、サーバ電源の再投入が行われます。サーバをリセットする前に Cisco UCS Manager にすべての管理操作を完了させるオプションの場合、それらの操作がサーバのリセット前に完了する保証はありません。



- (注) 電源切断状態からサーバをブートする場合は、[リセット (Reset)] を使用しないでください。この手順を使用して電源投入を続けると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、[キャンセル (Cancel)] をクリックし、[ブートサーバ (Boot Server)] アクションを選択します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>server-num</i>	指定したラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # <b>reset</b> { <b>hard-reset-immediate</b>   <b>hard-reset-wait</b> }	ラックマウントサーバのハードリセットを実行します。  ラックマウントサーバのハードリセットをただちに開始するには、 <b>hard-reset-immediate</b> キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後にハードリセットが開始されるようスケジュールするには、 <b>hard-reset-wait</b> キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A /server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次に、ラックマウントサーバ 2 のハードリセットをただちに実行し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset hard-reset-immediate
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

## ラックマウントサーバの認識

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出するには、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスクバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>acknowledge server</b> <i>server-num</i>	指定されたラックマウントサーバを認識します。
ステップ 2	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例では、ラックマウントサーバ 2 を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# acknowledge server 2
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

## ラックマウントサーバの解放

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>decommission server</b> <i>server-num</i>	指定されたラックマウントサーバを解放します。
ステップ 2	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

**例**

次の例では、ラックマウント サーバー 2 を解放し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# decommission server 2
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

## ラックマウント サーバの再稼働

**手順**

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>recommission server</b> <i>server-num</i>	指定したラックマウント サーバーを再稼働します。
ステップ 2	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

**例**

次の例では、ラックマウント サーバー 2 を再稼働し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# recommission server 2
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

## ラックマウント サーバーの番号付け直し

**始める前に**

サーバ間で ID を交換する場合は、まず両方のサーバを解放し、サーバ解放 FSM が完了するのを待ってから、番号の再設定手順に進みます。

**手順**

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>show server inventory</b>	サーバーに関する情報を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	サーバ インベントリに以下が含まれていないことを確認してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>番号を付け直すラックマウントサーバ</li> <li>使用する番号を持つラックマウントサーバ</li> </ul> <p>これらのラックマウントサーバのいずれかがサーバ インベントリにリストされている場合は、これらのサーバをデコミッションします。続行前に、デコミッション FSM が完了し、ラックマウントサーバがサーバ インベントリにリストされなくなるまで待機する必要があります。これには数分かかる場合があります。</p> <p>どのサーバがデコミッションされたかを確認するには、<b>show server decommissioned</b> コマンドを発行します。</p>
ステップ 3	UCS-A# <b>recommission server</b> <i>vendor-name model-name serial-numnew-id</i>	指定したラックマウントサーバをリコミッションし、番号を付け直します。
ステップ 4	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例では、ID 2 のラックマウントサーバをデコミッションし、ID を 3 に変更し、そのサーバをリコミッションし、トランザクションをコミットします。

UCS-A# **show server inventory**

```

Server  Equipped PID Equipped VID Equipped Serial (SN) Slot Status      Ackd Memory (MB)
Ackd Cores
-----
-----
1/1     UCSB-B200-M4 V01           FCH1532718P      Equipped          131072
  16
1/2     UCSB-B200-M4 V01           FCH153271DF      Equipped          131072
  16
1/3     UCSB-B200-M4 V01           FCH153271DL      Equipped          114688
  16
1/4     UCSB-B200-M4 V01           Empty
1/5     Empty
1/6     Empty
1/7     N20-B6730-1  V01           JAF1432CFDH      Equipped          65536
  16
1/8     Empty
1       R200-1120402W V01           QCI1414A02J      N/A               49152
  12

```

```

2      R210-2121605W V01      QCI1442AHFX      N/A      24576
8
4      UCSC-BSE-SFF-C200 V01  QCI1514A0J7     N/A      8192
8

UCS-A# decommission server 2
UCS-A*# commit-buffer
UCS-A# show server decommissioned

Vendor          Model          Serial (SN) Server
-----
Cisco Systems Inc R210-2121605W QCI1442AHFX 2

UCS-A# recommission chassis "Cisco Systems Inc" "R210-2121605W" QCI1442AHFX 3
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A # show server inventory

Server  Equipped PID Equipped VID Equipped Serial (SN) Slot Status      Ackd Memory (MB)
Ackd Cores
-----
-----
1/1     UCSB-B200-M4 V01      FCH1532718P      Equipped      131072
16
1/2     UCSB-B200-M4 V01      FCH153271DF      Equipped      131072
16
1/3     UCSB-B200-M4 V01      FCH153271DL      Equipped      114688
16
1/4     UCSB-B200-M4 V01
1/5     Empty
1/6     Empty
1/7     N20-B6730-1 V01      JAF1432CFDH      Equipped      65536
16
1/8     Empty
1      R200-1120402W V01      QCI1414A02J     N/A      49152
12
3      R210-2121605W V01      QCI1442AHFX     N/A      24576
8
4      UCSC-BSE-SFF-C200 V01  QCI1514A0J7     N/A      8192
8

```

## ラックマウント サーバーの削除

### 始める前に

次の手順を実行する前に、ラックマウントサーバとファブリック エクステンダを接続している CIMC LOM ケーブルを物理的に外します。ハイ アベイラビリティ構成の場合は、両方のケーブルを外します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>remove server</b> <i>server-num</i>	指定したラックマウント サーバーを削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、ラックマウントサーバ 4 を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# remove server 4
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

### 次のタスク

ラックマウントサーバを物理的に再接続する場合、Cisco UCS Manager に再検出させるために、サーバの確認応答を再び行う必要があります。

詳細については、[ラックマウントサーバの認識 \(10 ページ\)](#) を参照してください。

## ラックマウントサーバのロケータ LED の電源投入

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>server-num</i>	指定したラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # <b>enable locator-led</b>	ラックマウントサーバのロケータ LED の電源を投入します。
ステップ 3	UCS-A /server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、ラックマウントサーバ 2 のロケータ LED の電源を投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # enable locator-led
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

## ラックマウント サーバのロケータ LED の電源切断

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>server-num</i>	指定したラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # <b>disable locator-led</b>	ラックマウントサーバのロケータ LED の電源を切断します。
ステップ 3	UCS-A /server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、ラックマウントサーバ 2 のロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # disable locator-led
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

## ラックマウント サーバの CMOS のリセット

サーバのトラブルシューティングに CMOS のリセットが必要になることがあります。CMOS のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>server-num</i>	ラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # <b>reset-cmos</b>	ラックマウントサーバの CMOS をリセットします。
ステップ 3	UCS-A /server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、ラックマウントサーバ2のCMOSをリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset-cmos
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

## ラックマウントサーバの CIMC のリセット

ファームウェアで、サーバのトラブルシューティングにCIMCのリセットが必要になることがあります。CIMCのリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMCをリセットすると、CIMCはブレードサーバの管理コントローラを再起動します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>server-num</i>	指定したラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # <b>scope CIMC</b>	サーバ CIMC モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /server/CIMC # <b>reset</b>	ラックマウントサーバの CIMC をリセットします。
ステップ 4	UCS-A /server/CIMC # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、ラックマウントサーバ2のCIMCをリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # scope CIMC
UCS-A /server/cimc # reset
UCS-A /server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /server/cimc #
```

## ラックマウントサーバの TPM のクリア

TPMのサポートが含まれているCisco UCS M4 ブレードサーバおよびラックマウントサーバでのみ、TPMをクリアできます。





**注意** TPM のクリアは危険性のある操作です。OS が起動を停止することがあります。また、データを損失する可能性もあります。

#### 始める前に

TPM が有効である必要があります。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>server-num</i>	ラックマウント サーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A# /server # <b>scope tpm</b> <i>tpm-ID</i>	指定された TPM の org TPM モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A# /server/tpm # <b>set adminaction clear-config</b>	TPM のクリアを指定します。
ステップ 4	UCS-A# /server/tpm # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

#### 例

次に、ラックマウント サーバの TPM をクリアする方法の例を示します。

```
UCS-A# scope server 3
UCS-A# /server # scope tpm 1
UCS-A# /server/tpm # set adminaction clear-config
UCS-A# /server/tpm* # commit-buffer
```

## ラックマウント サーバのステータスの表示

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>show server status</b>	Cisco UCS ドメイン内にあるすべてのサーバのステータスを表示します。

**例**

次に、Cisco UCS ドメイン 内にあるすべてのサーバのステータスを表示する例を示します。番号が 1 および 2 のサーバは、ラックマウントサーバであるため、表にスロットが示されていません。

Server Slot	Status	Availability	Overall Status	Discovery
1/1	Equipped	Unavailable	Ok	Complete
1/2	Equipped	Unavailable	Ok	Complete
1/3	Equipped	Unavailable	Ok	Complete
1/4	Empty	Unavailable	Ok	Complete
1/5	Equipped	Unavailable	Ok	Complete
1/6	Equipped	Unavailable	Ok	Complete
1/7	Empty	Unavailable	Ok	Complete
1/8	Empty	Unavailable	Ok	Complete
1	Equipped	Unavailable	Ok	Complete
2	Equipped	Unavailable	Ok	Complete

## ラックマウントサーバからの NMI の発行

システムの無応答状態が続き、Cisco UCS Managerによって IMC から BIOS またはオペレーティングシステムに NMI（マスク不能割り込み）を発行する必要がある場合には、次の手順を実行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティングシステムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

**Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> [ <i>chassis-num/server-num</i>   <i>dynamic-uuid</i> ]	指定したサーバのサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>diagnostic-interrupt</b>	
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # <b>commit-buffer</b>	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

**Example**

次に、シャーシ 2 のサーバ 4 から NMI を送信し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

## Power Transition Log の表示

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server server-num</b>	ラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A# /chassis/server # <b>show power-transition-log</b>	指定したサーバの <code>computeRebootLog</code> インスタンスを表示します。

### 例

次に、サーバ 3 の Power Transition Log を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope server 3
UCS-A# /chassis/server # show power-transition-log

Last 5 server reboots (Newest first):

Pwr Change Source                Last pwr transition timestamp
-----
UCSM TURNUP                       2016-10-28T09:35:04.498
HOST PWR TRANSITION               2016-10-27T17:06:56.157
UCSM TURNUP                       2016-10-27T17:06:24.734
UCSM ASSOCIATE                    2016-10-27T17:06:24.068
UCSM SERVER DISCOVER              2016-10-27T16:56:56.153
```



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。